

ナシ白紋羽病の温水治療

白紋羽病は、火山灰土壌で多く発生するナシの土壌病害です。

温水治療処理は、白紋羽病菌が熱に弱いことを利用し、樹周辺の土壌表面から温水を点滴することにより、地温を35~45℃に維持し、樹体に影響を与えることなく病原菌を殺菌する方法で農研機構が開発しました。

この技術は、農薬を使用しないため、環境への影響が小さく、大きな労力を必要としないメリットがあります。



温水点滴処理機 (EB-1000) を使用し、50℃の温水を、毎分約 10 ㍓ずつ点滴チューブに送水する。地下 30 cm の地温が 35℃を超えたら処理を終了し、保温シートで 2 日間被覆し温度を保つ。



病状が進んだ樹、果実は全摘果

(2年後) 樹勢回復、標準着果

温水点滴処理により樹勢が回復

(農業革新支援担当 TEL 0480-21-1140)